

# 「東郷学園義務教育学校の山田地区俵踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

## 2 学年・人数

5年生～7年生 計30人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和4年9月～10月ふるさと・コミュニケーション科（本校交流スペース他）  
令和4年11月2日（水）学園祭りハーサル（本校体育館）

### (2) 発表の日時・場所

令和4年11月4日（金）東郷学園義務教育学校学園祭（本校体育館）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

### (1) 名称

俵踊り（たわらおどり）

### (2) 由来

五穀豊穰を祈願する踊りとして昭和初期のころから始まり踊り継がれている。戦後まもなく若い後継者に踊り継がれるようになった。昭和34年に地元で踊られたのが最後となっていたが、平成10年に地域の方々の記憶をたどりながら復活し、稽古に励んでいる。

### (3) 構成等

楽が鳴り出すと、踊り子が俵を担いで入場し、途中で山型に積み上げる。踊り子の一人が俵を取って先頭の踊り子に渡す。豊年の喜びと苦労などを盛り込んだ変化の激しい踊りである。扮装は、緋の着物に赤色のお腰をのぞかせる。頭にはソロバンタオルを姉さんかぶりにし、歌に合わせて踊る。

## 5 保存会や地域との連携の具体

以前は、旧山田小学校の運動会などで子供たちによる公演をしていた時期もあったが、児童数の減少や各保存会の取組事情により、困難となった。現在は、保存会加入や子供たちによる練習・取組はできていない（男性のみ、あるいは女性のみでの踊りのため）。各自治会・保存会においては、神社の祭典、馬頭観音祭、集落親睦会、集落精霊流し、その他依頼に応じて公演している。子供たちもこれらの機会を通して地域の郷土芸能に触れている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、「山田地区の伝統芸能」コースを設定して伝承活動の取組についても学習している。過去、学習発表会や5～7ステージ交流学习で発表した。

児童生徒に、東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、大切にしていこうという心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。

## 7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



交流スペースでの練習風景



学園祭での発表

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童生徒】

踊っていてとても覚えやすくて楽しかったです。先生たちも優しく教えてくれて嬉しかったです。自分の地域に残る踊り（郷土芸能）を覚えて、機会があれば踊りたいなと思いました。

### 【教職員】

山田地区に継承されてきた伝統芸能に関わることは、地域とともにある学校として大切だと感じている。学園祭で鑑賞した1～4年生には好奇心を刺激し、8・9年生は練習したことを想起するいい機会になったことと思う。

### 【保護者から】

立派に郷土の伝承芸能を踊る子供たちに感動した。とてもいい経験ができてよかったと思う。

### 【地域・保存会の方から】

各自治会・保存会の発表ができてよかった。保存会の構成が年々、高齢化してきた。子供たち、若い人たちに、このような経験を沢山して、山田地区の伝統芸能を受け継いでいってほしい。